

第1章 はじめに

1 研究主題

「自己をコントロールする力が育ち、自己肯定感が実感できる学習の在り方」

2 主題設定の理由

21世紀を迎え、社会はますます変化が激しく流動的な社会となり、私たち一人一人が自己の在り方や生き方を考える上でも、先行き不透明な社会となっている。

学校教育においては、その時代を力強く生き抜くために、子どもたちに全ての教育活動を通して「生きる力」の育成を図り、豊かな心をもちたくましく生きる能力を身に付けさせるとともに、学習における基礎・基本の徹底と学力の充実・向上を図り、それを基盤に自らが豊かな個性を培うことができる主体的な学習の在り方を身に付けさせねばならない。

平成元年から、新しい学力観に基づく学習指導要領による教育課程の編成・実施が進められ、教職員の教育観の転換が図られるとともに、指導方法の工夫など授業改善が実践されてきた。さらに、教育改革の大きな流れの中で、平成14年度から小学校、中学校においては、生きる力の育成を基本的なねらいとする新学習指導要領が全面実施となる。こうした中で、生涯学習の基盤を培う学校教育の在り方が確立され、子どもたちの主体的な学習の姿が実現されようとしている。

一方、それら多くの成果とともに、依然として不登校の増加傾向やいじめの潜在化、いわゆる学級崩壊、校内暴力、校種を問わず懸念されるキレる子どもの増加、友人関係の希薄化、学校生活における無気力傾向など多くの教育課題が存在する現状がある。

これらの課題を学習活動の場面を中心にとらえ直すとき、子ども一人一人の中で機能すべき自己をコントロールする力や、はぐくまれるべき自己肯定感の弱さが非常に気にかかる状況にあると考える。

そこで、本研究では、自己をコントロールする力（以下、本研究では自己コントロール力とする）を発揮し、自己肯定感を実感しながら、一人一人が主体的に「生きる力」をはぐくむことができる学習の在り方について考察し、具体的に検証することを通して今日的な教育課題の解決策の一端を提示することをねらいとして主題を設定した。

3 研究仮説

「自己コントロール力」は、学習活動における自己のつまずきや葛藤の場面の中で、自らの否定的な欲求を抑えたり、逃避するのではなく、その状況を客観的に整理し認識したり、その課題解決に向けて、積極的に忍耐強く努力しようとする能力である。それらの場を学習の過程において適切に設定し、一人一人の子どもがその能力を身に付けることは主体的な学習を支える基盤となる。

「自己肯定感」は、自らの学習活動を振り返り、その結果や成果、又自己の努力した学習過程そのものに達成感や充実感を感じたり、他者からの承認や賞賛を得ることなどを通して実感できるものである。それらの機会や場を学習の過程で適切に設定することは、次の学習への積極的な態度や意志の形成につながる。

様々な学習場面において自己コントロール力を働かせることができることや自己肯定感を実感できることは、一人一人の子どもが主体的に学習活動に取り組もうとする態度や意欲を培うだけでなく、豊かな人間性を身に付ける上からも大切なことである。また、生きる力をはぐくむ上で、重要なキーワードとなると考える。二つのキーワードから学習活動における状況を把握・分析し、それらが有効に機能する学習活動の在り方を考察し、授業実践を通して具体的に検証することは、授業改善につながるものであるばかりでなく、学校教育における生きる力の育成の一方策を提示することとなる。

4 研究の内容と年次計画

自己コントロール力を発揮し、自己肯定感を実感できる学習活動の在り方や方法について、具体的、実践的に研究を進める。

(1) 内容

ア 子どもの現状など、今日的な教育課題について認識を深め、「生きる力」の育成を基本とする教育改革の流れやその成果と課題について再確認し、学習活動を取り巻く課題を明らかにする。

イ 学習における自己コントロール力と自己肯定感の有効性について調査・検証、考察する。

ウ 自己コントロール力を発揮させ、自己肯定感を実感させる学習の在り方、方法について考察する。

エ 自己コントロール力と自己肯定感をはぐくむ授業の在り方や方法・留意点について、実践的に検証する。

(2) 年次計画

ア 1年次（平成12年度）

今日的な子どもの現状と課題について、諸答申や文部科学省等が実施した調査結果を踏まえ、学習活動を中心に課題解決に向け、どのような視点で、どのような方策をとることが望ましいかについて考え、具体的な授業展開を例示しながら整理する。

また、2年次に各校種を対象に実施する、授業と子どもに係る調査の項目について検討する。

イ 2年次（平成13年度）

校種ごとに、学習活動にかかわる児童生徒を対象とする調査を実施する。

調査結果を整理・検討し、本府における状況の把握の上に立ち、課題とその解決策について考察する。さらに各校種から研究協力員を委嘱して、具体的実践を基に自己をコントロールする力が育ち、自己肯定感を実感させることができる授業の在り方について考察する。

ウ 3年次（平成14年度）

2年次の研究成果を踏まえ、仮説に基づく具体的な授業の在り方等を整理し、授業を通して仮説を検証する。各校種から研究協力員を委嘱し、一定期間にわたる実践を基に具体的な方策を検証する。